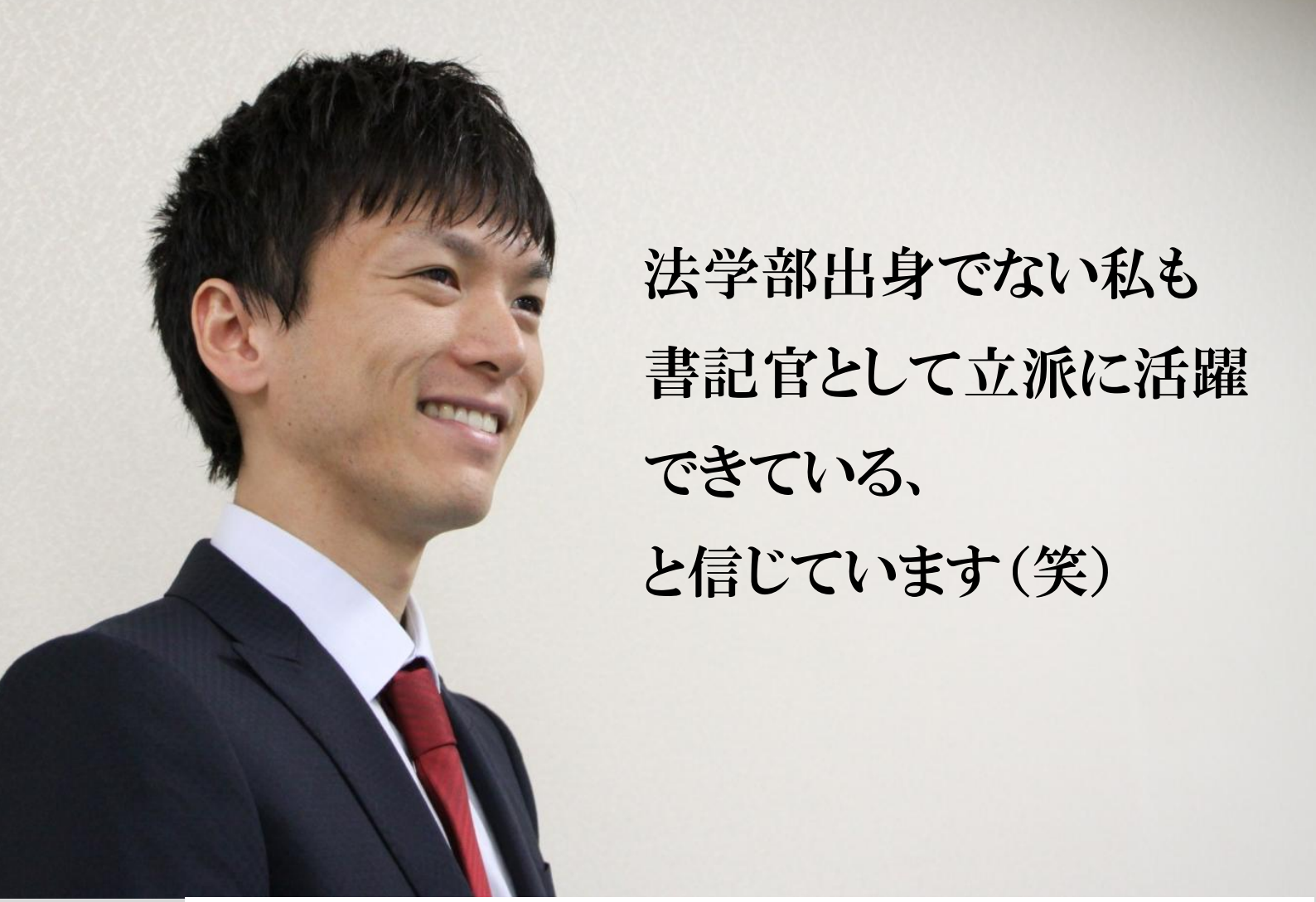


法学部出身でない私も
書記官として立派に活躍
できている、
と信じています（笑）

Ryo
Yamamoto

山　本　　僚

奈良地方裁判所葛城支部
書記官

平成 23 年採用

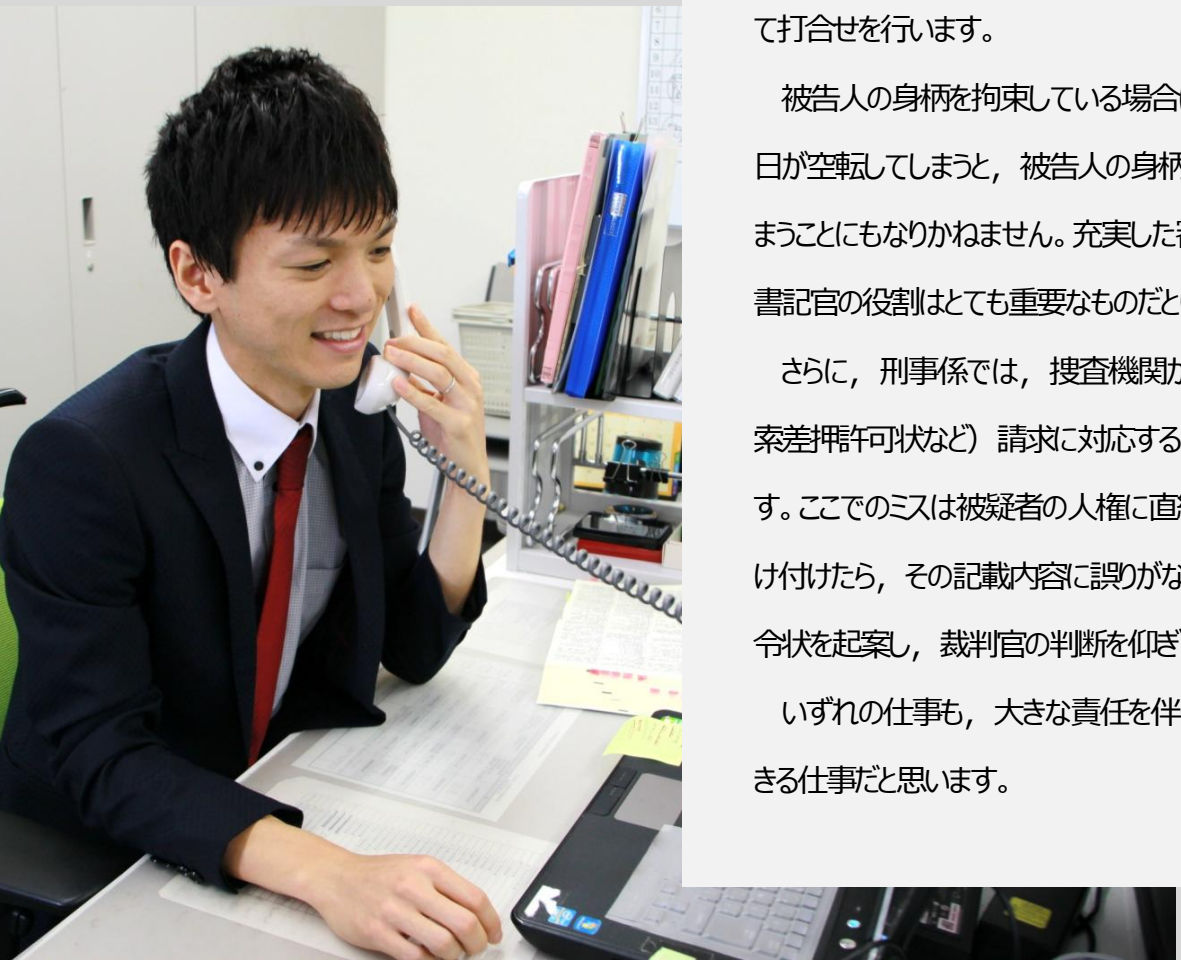
裁判所書記官

刑事係の書記官の仕事

はじめまして，こんにちは。奈良地方裁判所葛城支部刑事係で裁判所書記官として勤務しております，山本僚と申します。

早速ですが，みなさんは，書記官の仕事としてどんなものを想像されますか？

多くの方が連想するのは，裁判に立ち会い，調書を作成することではないでしょうか。法廷でのやりとりは，書記官が作成した調書によってのみ証明されるという強い証明力があるので，間違いのないよう注意を払いながら作成する必要があります。また，裁判所書記官の仕事はそれだけでなく，その法的素養を活かし，訴訟手続のあらゆる段階に関与して，訴訟手続が適正，迅速に進められるよう，裁判官と二人三脚で仕事をしています。



例えば，検察官から事件が起訴されたら，裁判所書記官は，訴訟関係人と裁判の期日を調整し，その期日が円滑に進むよう訴訟関係人に準備を促します。そして，期日前には，双方の準備状況を踏まえながら，裁判官と当日の進行について打合せを行います。

被告人の身柄を拘束している場合には，もし準備不足で期日が空転してしまうと，被告人の身柄を必要以上に拘束してしまうことにもなりかねません。充実した審理を行うため，裁判所書記官の役割はとても重要なものだといえます。

さらに，刑事係では，捜査機関からの令状（逮捕状や捜索差押許可状など）請求に対応するという大切な仕事があります。ここでのミスは被疑者の人権に直結するため，請求書を受け付けたら，その記載内容に誤りがないかをしっかりチェックし，令状を起案し，裁判官の判断を仰ぎます。

いずれの仕事も，大きな責任を伴いますが，社会に貢献できる仕事だと思います。

職場の雰囲気

こういう話をすると，職場はとても厳格で，近寄りがたいと思われるかもしれません。しかし，実際には，とても風通しの良い職場です。時には，事務処理上で困難な問題に直面し，頭を悩ませることもありますが，そんな時は，裁判官はもちろんのこと，上司や同僚も相談に乗ってくれ，アイデアを出し合いながら，問題を解決しています。そのように力を合わせて問題を解決できたときは，大きなやりがいを感じます。

　このように，裁判所では，裁判官，裁判所書記官，裁判所事務官などが「チーム裁判所」となって仕事をしています。

仕事に対する姿勢

書記官として仕事をする上で，心掛けているのは，「正確かつ迅速な仕事をすること」です。裁判所書記官のミスにより訴訟手続に影響が生じた場合には，司法への信頼が失われかねません。

もしヒヤリとすることがあれば，再発防止のため，部署全体で仕事のあり方を見直すとともに，正確な仕事の重要性について認識を共有するようにします。

一方で，裁判所は膨大な事件数を抱えているため，効率的に仕事をしていく必要があります。このように，正確かつ迅速な仕事の進め方を追求し続ける姿勢が大切だと実感しています。

書記官への道

ときどき，「法学部卒ではないけど書記官になりたい，でも法律の知識にあまり自信がないし，自分につとまるだろうか」という声を聞くことがあります。

確かに，裁判所書記官の仕事内容は法律知識が不可欠ですが，心配は無用です。裁判所書記官として任官する際に，１年間又は２年間に渡る研修を受け，そこで裁判所書記官としてのイロハを学ぶことができます。研修所には全国からたくさんの仲間が集まり，非常に充実した時間を過ごすことができます。

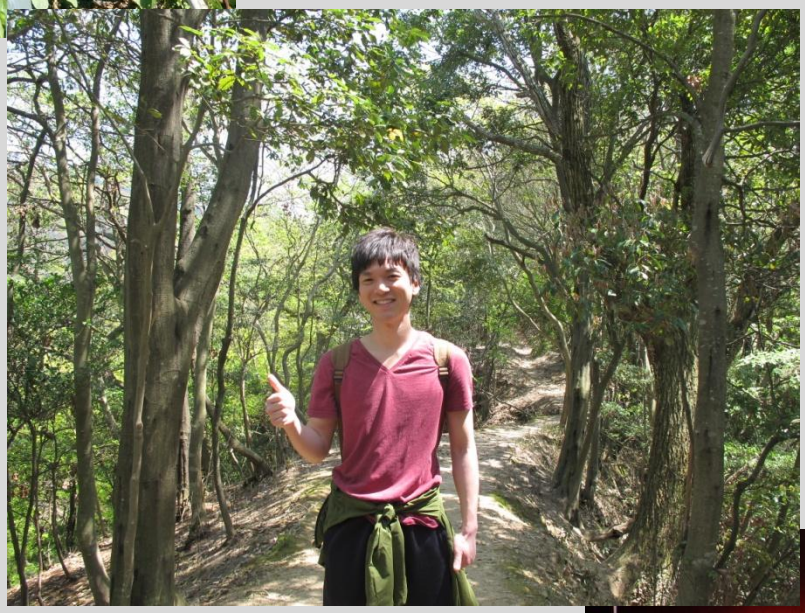
また，任官後も，先ほどのように，分からないことを率直に議論しあえる職場の雰囲気もあります。

実は私も法学部出身ではありません。採用された当初は，日々飛び交う専門用語に戸惑いました。右も左も分からず，本当にやっていけるのかと不安になることもありました。しかし，資料を読み込んだり，上司や先輩のアドバイスを素直に受け止めた上で，自分で考えながら仕事をこなすうちに，ノウハウを一つ一つ習得していくことができました。現在では裁判所書記官として立派に活躍できている，と信じています（笑）。法学部出身でないからといって，決して書記官任官をあきらめる必要はありません。

オフの過ごし方

仕事後は，帰宅してから料理や筋トレ，ピアノを弾いたりして趣味の時間を作るようにしています。また，人間関係作りは大切なので，飲み会に参加することもあります。休日は，友人の畑作業を手伝ったり，夫婦そろってバドミントンサークルに参加したりします。今度職場の有志でボウリング大会が開催されるので，こっそり練習をしていることは秘密です（笑）。

　しっかり休んでしっかり働く。そんなメリハリをつけた生活が大切だと思っています。



これから裁判所を目指す皆さんへ

社会情勢の変化に合わせて，法律は変わります。法律が変われば，裁判所書記官の仕事も変わります。また，仕事をこなすうちに，新たな問題点が出てくることもあるでしょう。そんなときでも，主体的に学び，考え，仲間を信頼する姿勢があれば，きっと大丈夫です！

　みなさんも，「チーム裁判所」に仲間入りしませんか？